

平成21年度 第1回関西支部セミナー 「ALL ON 4」の実習セミナーに参加して

講師：五十嵐 一
日時：平成21年1月18日(日)
場所：梅田スカイビルタワーウエスト(大阪)



永井 一光 (鹿児島県)

平成21年1月18日(日)に梅田スカイビルタワーウエスト22F会議室にて、第1回関西支部セミナーが開催されました。

私事で恐縮ですが、昨年春ぐらいから「ALL ON 4、やっていますか?」という患者さんからの電話問い合わせに苦慮。平成20年6月ノーベルガイド導入、11月にマロ・クリニック(ポルトガル)ライブ・オペ見学と相成りました。

いくつかケースは経験させて頂きましたが、まだまだ即時荷重には不安がいっぱいです。

今回は、多くの「ALL ON 4」症例数を御経験の五十嵐 一先生の講義と聞き、非常に楽しみに参加しました。

「ALL ON 4」成功のキーとして

① A-P Spread (前方・後方のインプラント距離)の重要性

前方(左右2番部)、後方(左右5番部)に合計4本のインプラントを埋入した症例。

2番部と5番部のインプラント間隔が5mmの場合、各インプラントにかかるストレス値は、インプラント間隔が10mmの場合と比較して約2倍となる。従って、前後のインプラント間距離は、最低10mm開ける。

4本が、ほぼ直線に並ぶようなA-P Spreadがないケースでは、サイナスリフトなどを併用し、埋入本数を増やしている。

ただし、A-P Spreadが逆に大きく20mmを超える場合は、プロビジョナルの破折が心配。

② インプラント初期固定の必然性

比較的骨質が良好と言われる前方骨 (Zone1の骨)

を利用し、アダプテッド・サージカル・プロトコールに従い骨を削合し過ぎない。

傾斜埋入を含めできるだけ長い、径4.0mmインプラント体を選択。後方の傾斜部から埋入し、前方埋入に移る。埋入トルク値は40~45Ncm必要。

③ 強固なプロビジョナルの必要性

早期のプロビジョナル破折は、インプラント脱落に繋がる。

プロビジョナルには、弾性の補強線を入れ、即重はPROVINICEを使用。プロビジョナルでは、あまり後方歯で咬合させない。埋入後1ヵ月は咬合に配慮し、プロビジョナルの破折に気を付ける。

カンチレバーは、プロビジョナルでは設置せず、最終補綴物でも1歯程度に止める。

④ 「ALL ON 4」

インプラントの本数4本や傾斜埋入に拘らず設計する。

⑤ ザイゴマ・インプラント

ザイゴマ・インプラントは安全性と予後に不安。サイナスの前方粘膜部をわずかに剥離挙上し、後方から上顎洞内を通過、犬歯窩付近の固い骨に維持を求める方法が無難。

⑥ 材料や技工費用等の経費率が高い。などなど… 本音も少々…

今回は、講義だけでなく埋入実習も有り、基本的な知識の確認からアドバンスなテクニックまで大変有意義な研修会となりました。

中野喜右人、古市嘉秀、松下和彦先生、他 関西支部の先生方、御世話になりました。



講師の五十嵐 一先生



熱心に講師とディスカッション



埋入実習も行われ、
真剣そのものの先生方



五十嵐講師のスタッフの
先生ともディスカッション